

正時代、昭和20年までの高天原時代を加えれば、実に肇会80年を数えるだけに、今度こそはの熱意だけではとの一抔の危惧を覚えるが、ローターのくり言であればよいのだが。

親睦旅行会

春の美唄市内の学童口腔健診の目途もついた5月16日(出)恒例の旅行会を例によって一泊で札幌ジャスマックにおいて行う。すっかり若返った美唄歯科医師会員にとってススキノのド真ん中にあるだけに、すべてに都合がよくこの日ばかりは少しは羽を伸ばしてはいかが。

(雨田 実記)



会史編纂の努力は続くが

美唄歯科医師会が終戦後新制度のもとで発会してから今年50周年を迎える。道歯会の中でも大部分の郡歯会が50年を記念して式典や記念誌の編纂を予定、すでに開催また発行した歯会もあるだけに、美唄においても昨年12月18日会史編纂実行委員会を開催して、実行委員長に宝崎会長を、会史編纂編集委員長にはかねてから会史編纂に情熱を燃やしている平理事を満場一致で選出し、新しき酒は新しき器にの言葉の通り態勢は出来上がった。小さな歯会でもあり、予算の面からも、あれもこれもと盛り沢山の総花的なことは一切しないで50年史一本に全力を結集しようということで皆の総意がまとまった。昭和11年頃、昭和37年頃二度にわたって会史編集の気運はもり上がったが結果的には出来なかったという苦い歴史をかみしめて、何事三度のたとえにもある通り今度こそはと皆張り切っている。特に平編集委員長の熱意はすさまじいばかりであり、1月以来休日返上で資料の整理に大奮とのことである。去る4月14日(火)第2回編集委員会ではさらに踏み込んだ議論のもとに大体の軌道を引くことが出来たことは上出来と言えるが、新制度の美唄歯科医師会発会の前の大